

01-5 日本人女性における乳がん・子宮体がん・結腸がん・肺がんの最近の動向 ー乳がんの年齢階層別発症率パターンが米国在住東南アジア人に近づくー

浅田里紗、早出 廉（松本大学人間健康学部健康栄養学科）

成瀬祐子、青木雄次（松本大学大学院健康科学研究科）

キーワード：日本人女性、乳がん、子宮体がん、結腸がん、肺がん

要旨：日本人女性の乳がん、子宮体がん、結腸がん、肺がんの年齢階層別発症率と死亡率について、2004年から最新の2019年までのデータについて検討した。乳がんと子宮体がんは発症率と死亡率両者が増加しており、結腸がんと肺がんは高齢者の発症率に増加がみられるが、死亡率は不変またはやや減少傾向であった。二峰性を示す年齢階層別乳がん発症率パターンの閉経後ピークが、以前示した60-64歳から70-74歳へと米国在住の東南アジア人に近づいていた。肥満率や大豆製品の摂取量の変化との関係はみられず、これまでに指摘の西欧化する生活スタイルの影響が推測される。

A. 目的

乳がんの年齢階層別発症率パターンが、2005年から2015年にかけて二峰性を呈して上昇しており、肥満率ではなく飲酒・喫煙率の年次推移と相関することを、昨年の信州公衆衛生学会総会において報告した¹⁾。ここでは、2019年までの最新のデータを追加し、閉経後の乳がん発症率の動向に注目し検討した。

B. 方法

日本人女性の乳がん、子宮体がん、結腸がん、肺がんの2004年から2019年の年齢階層別発症率および死亡率は、国立がんセンターがん情報

サービス (http://gdb.ganjoho.jp/graph_db/) よりデータを得た。最近の米国における人種別年齢階層別乳がん発症率（2000年を基準人口とした2015年から2019年の平均発症率）について、米国がん学会の報告書²⁾の図を使用した。

日本人女性における2004年から2019年の年齢階層別肥満率（BMI25以上）および2011年から2019年の大豆製品摂取量は、国立衛生研究所の国民健康・栄養調査 (https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kenkou_eiyuu_chousa.htm) よりデータを得た。

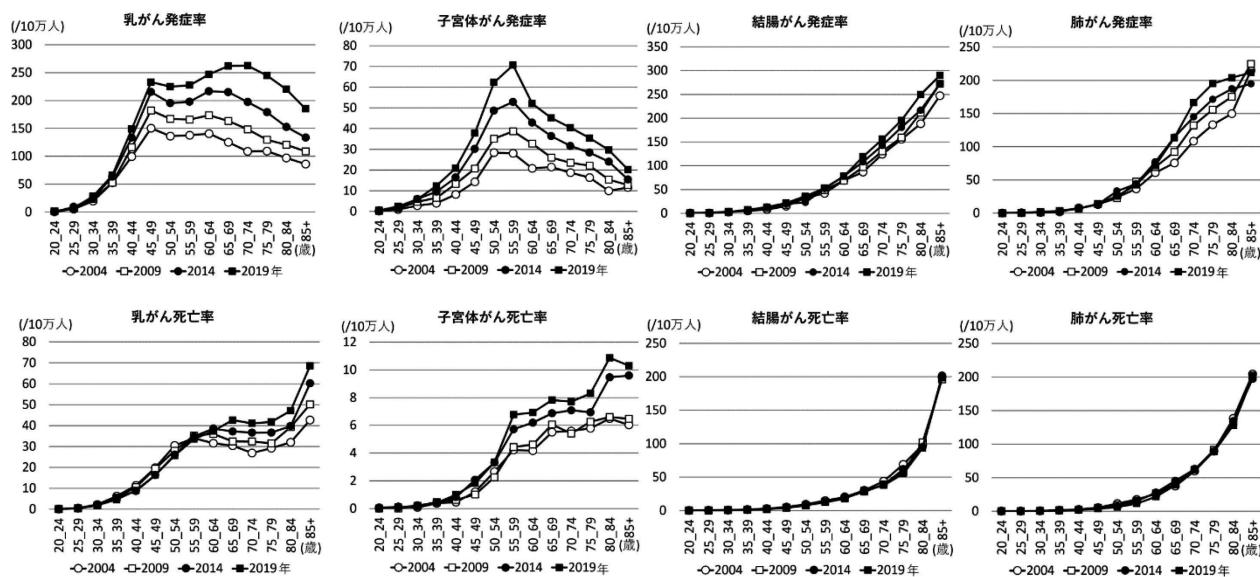


図1. 日本人女性における2004年以降5年毎の年齢階層別がん発症率と死亡率

C. 結果

図1に示すように、乳がんと子宮体がんは発症率と死亡率両者が増加しており、結腸がんと肺がんは高齢者の発症率に増加がみられるが、死亡率は不変またはやや減少傾向であった。この乳がん発症率を最近の米国における人種別乳がん発症率のグラフに重ねると(図2)、日本人女性の閉経後のピークが60-64歳から70-74歳へと米国在住の東南アジア人に近づいていた。

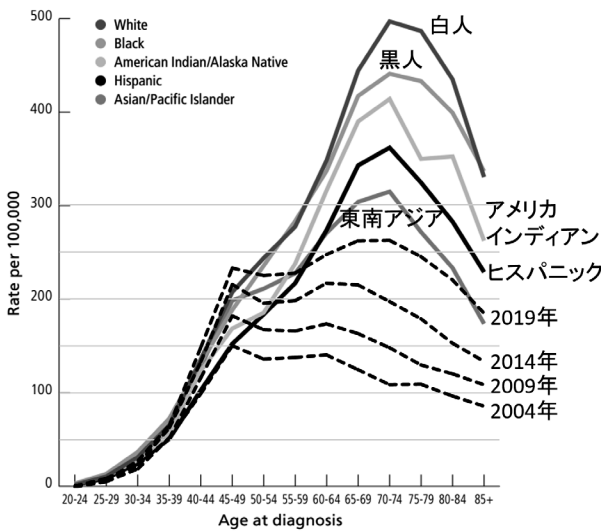


図2. 日本人と米国人の年齢階層別乳がん発症率

肥満率の年次推移(図3)をみると、一般に日本人女性の閉経後とされる50歳以降はむしろ低下傾向であった。また、大豆製品摂取量の年次推移(図4)は、50歳以降でやや増加傾向であった。

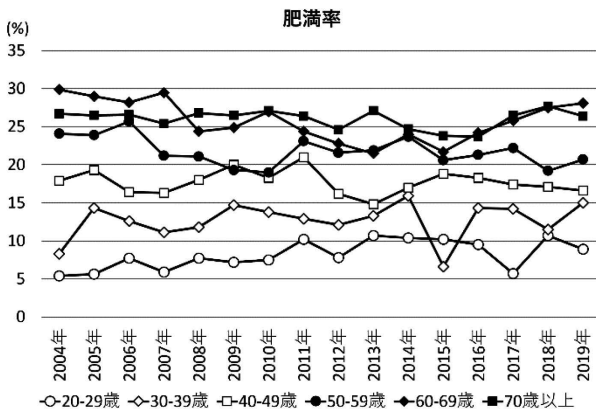


図3. 肥満率の年齢階層別年次推移

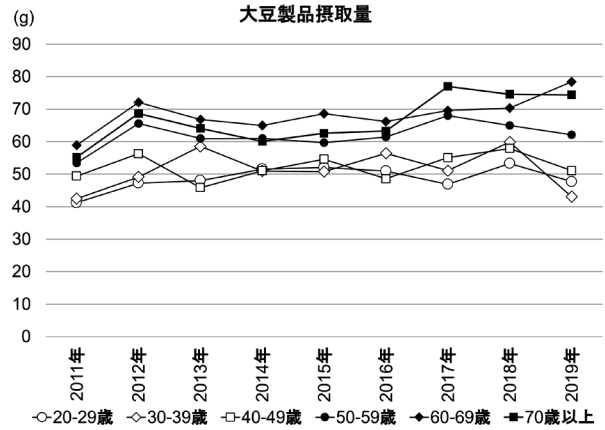


図4. 大豆製品摂取量の年齢階層別年次推移

D. 考察

閉経前後に2峰性を示す2015年までの乳がん発症率について、閉経後のピークが米国と比べて低いのが日本人女性の特徴であり、低い肥満率と大豆食品の摂取が影響している可能性を以前報告した³⁾。2019年には、そのピークが米国人と同じ年齢階層へと変化し増加率が大きくなっていったが、肥満率と大豆製品摂取量の変化の影響とは考えにくい結果であった。結腸がんや肺がんと同様に加齢に伴う変化の寄与が大きくなっていることも推察される。一方、各年齢層で乳がん発症率が増加を続けており、これまで指摘されている食生活を含めた西欧化する生活スタイルの影響に、より注意を向ける必要があると思われる。

E. 利益相反

利益相反なし。

F. 文献

- 1) 新津天音 他. 最近の乳がん増加が肥満率ではなく飲酒・喫煙習慣に関連する可能性. 信州公衆衛生雑誌 17: 42-43, 2022.
- 2) American Cancer Society. Breast cancer occurrence. Breast Cancer Facts & Figures 2022-2024: 3-11, 2023.
- 3) Tokutake N, et al. Age-specific incidence rates of breast cancer among Japanese women increasing in a conspicuous bimodal distribution. Proc Singapore Healthcare 30 (2) : 166-169, 2021.